

目 次

技 術 論 文	硫化物分散型摺動部材用鉛フリー青銅鑄物の摩擦特性 平井良政, 佐藤知広, 小林 武	325
~~~~~		
技 術 報 告	アルミニウム合金溶湯の脱りん技術の開発 森中真行, 豊田充潤 .....	332
レ ビ ュ ー	アルミニウム合金鑄物における最近の技術動向 (2012-2015) 岩澤 秀 .....	338
現 場 改 善	ダクトイル鑄鉄製鑄包み式静翼車の流路部鑄肌改善による品質の向上 牛尾利行, ほか .....	346
	自動生型造型ラインにおける鑄鉄品のダコン不良低減 増田修一, ほか .....	349
解 説	鑄鉄の材質の変遷 中野俊雄 .....	353
連 載 講 座	連載「鑄造要素技術概論」 アルミニウム合金ダイカスト金型のメンテナンス 佐々木英人, 菊池政男, 古屋毅文 .....	358
~~~~~		
新名誉会員の紹介	364
会長就任のごあいさつ	木口昭二	366
平成28・29年度役員	368
~~~~~		
インタビュー「鑄物人」	.....	370
シリーズ「海外生活体験レポート」	.....	372
ズバリ回答・・・今さら聞けないこんなこと	.....	374
Y F E だより	.....	375
追 悼 記 事	.....	376
「Materials Transactions」誌への投稿	.....	382
学会関連行事日程／次号予定	.....	383
編 集 後 記	.....	384
鑄造品生産量推移	.....	385
会 告		

表紙の写真



表紙の写真：鑄物の街 三重県桑名市  
コメント：三重県の北部に位置する桑名市は、古来より鑄物の製造が盛んで、その起源は、江戸時代桑名藩の初代藩主となった本多忠勝の命による鉄砲の製造に始まったと言われ、銅合金による鑄物が中心で、神社仏閣の燈籠、梵鐘、鍋釜類、農具などを作っていた。明治時代になると銑鉄を使用した鍋釜、梵口などの家庭用品を生産するようになり、次第に電気や機械のための鑄造部品の生産を開始し、「東の川口、西の桑名」とも呼ばれ、日本の二大鑄物産地の一つとして成長した。昭和40年代後期には200社を超え、生産量は年20万トン以上であったが、現在は30社程度になってしまった。そこで、三重県鑄

物工業協同組合が中心となり、桑名の鑄物産業を盛り上げようと活動している。  
表紙の写真は、市内の春日神社の青銅の鳥居で、藩主松平定重が鑄物師社内種次に日本一の青銅鑄物の鳥居にするよう命じて作らせたと言われている。また、桑名市西部にある多度大社には天照大神が岩屋戸に隠れた際に刀、斧などを作って活躍した天照大神の御孫神である天目一箇命（あめのまひとつのみこと）が別宮で祀られており、鉄工・鑄物をはじめとする日本の金属工業の祖神、守護神として全国の関連業者が参拝に訪れている。